

コミュニティ・センターやPTAとの連携・協働により郷土愛を育む取組



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
八幡平市立 安代小学校	安代小学校学校運営協議会 平成30年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 1名	安代小学校地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

平成15年4月に、旧安代町の荒屋小、五日市小、浅沢小、細野小、畑小の5校が統合して安代小となったが、統合後も、旧小学校区にあるコミュニティ・センターや新たに制度化した教育パートナー制度などにより、地域と連携・協働した活動を展開してきた。しかし、関係者の高齢化、少子化等により、これまでの活動の継続に課題が見られるようになった。また、地域が広域であることから、それぞれの地域でどのような願いから子どもたちを育てようとしているのかを共有することが難しかった。

目標や目指す姿(学校)

郷土の良さを理解し、郷土を愛する心を育むとともに、復興・発展を支える人づくり

目標や目指す姿(地域)

ふるさとを愛するとともに、自分に自信をもち、前向きに挑戦する子ども



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

協議会では教育パートナー制度を生かした地域学校協働活動について共有している。令和2年度には、少子化によりマーチングの取組が困難になっていたことに加え、働き方改革の視点から学校運営協議会において、廃止することを決定した。地域との共通理解をもとに納得のいく結論を見出すことができた。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

教育パートナー制度等を生かして、授業時間における算数プリントの丸付けや体育のスキー学習の指導を依頼している。また、低学年の農作物づくりや中学年のそば作り学習においては、コミュニティ・センターの協力を得て、専門的な指導をいただいている。



教育パートナーの活動

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

CSコーディネーターが学校運営協議会委員として協議から参加し、当日の運営まで対応するため、スムーズに地域学校協働活動を進めることができている。
また、各コミュニティ・センター長が学校運営協議会委員として参加していることから、農作物づくりやそば作り学習、鮎の放流等の体験活動を実施する際、コミュニティ・センター職員も協力してくれている。

取組

成果・効果

	要素	構成要素	R3 本校	R2 全国	比較
1	自律性	・法定3権限の有無 ・法定3権限の適切な運用	81.4%	84.8%	-3.4
2	対等性	・関係主体の関係性 ・議論の対等性	85.7%	85.0%	+0.7
3	持続性	・協議会の目的、目標の共有 ・持続的な議論体制	90.9%	90.6%	+0.3
4	熟議度	・企画段階からの協議 ・内省、評価の実施、反映	84.3%	84.2%	+0.1
5	実行性	・学校長の主導的役割 ・教職員との協力・連携	95.7%	90.5%	+5.2
6	共有性	・多様な主体の巻き込み ・情報の共有、協議からの情報発信	78.6%	76.5%	+2.1

本校の学校運営協議会制度の効果を把握するために、令和2年に文部科学省が実施した調査「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」の質問紙を用いて、学校運営協議会委員にアンケートを実施したところ、「実行性」「共有性」において、令和2年度の全国平均を上回った。このことから、本校の学校運営協議会制度は、協議だけで終わらずに実行できていること、そして、教育パートナー制度を中核に地域の多様な方々が参画して地域学校協働活動ができているということが考えられる。

子供たちは、学校だけではなく、地域の方々にも見守られているという安心感をもっており、現在、不登校児童はいない。今後も、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進し、精選という視点も大事にしながら、より充実した地域学校協働活動を実践していきたい。